

■計画の基本的な考え方 ～第1章で表現～

**Point!** 第1章では、計画の基本理念、地域福祉とは、本計画策定の趣旨、大田区らしい地域共生社会の姿、多様な主体の役割等を丁寧に表現していきます。

◆計画の基本理念について

『ともに支えあい 地域力ではぐくむ 安心して暮らせるまち』

現行計画は、「ともに支えあい 地域力ではぐくむ 安心して暮らせるまち」を基本理念としています。

皆さんが、地域社会の一員として、安心して、その人らしく、充実した生活を送れるように、また、多様な主体が連携して、地域力により、区の様々な地域課題に取り組むための考え方、方向性を示しています。



◆大田区らしい地域共生社会の姿について

地域活動が活発な大田区で、地域住民や多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく、大田区らしい地域共生社会の姿を表現し、皆さんと共有します。



【イメージ案】

◆多様な主体の役割について

地域で暮らす皆さん自身が、安心して暮らせるよう、行政のみならず、地域福祉の推進の主体となる地域住民、団体、企業等における、地域福祉への自らの関わり方や役割の例も示し、皆さんが主体的に取り組を進めていける計画にしていきます。



■区の地域福祉を取り巻く現状と目指すべき方向性 ～第2章で表現～

**Point!** 第2章では、次期計画において、地域福祉の推進にあたり、現状から見えた必要とされる方向性を示します。

1 住民同士のつながり、社会的孤立に関する現状

- ◆世帯構成において、単身世帯と核家族を合わせると、9割以上を占め、特に単身世帯の割合は、上昇傾向にあり、全体の5割を超えています。
- ◆自殺・虐待等の様々な問題の要因にもつながる社会的な孤立を感じている方がいることも、実態調査の結果から示されています。
- ◆調査結果から区民が望む近所づきあいでは、現状と希望にギャップがあり、より親しい関係を望む方が多くなっています。



1 次期計画の方向性: 孤立を生まない・排除されない地域づくり

地域における他者とのつながりを作る機会を生み出し、孤立を生まない、排除されない地域づくりを目指します。

2 区民の地域活動等への参加に関する現状

- ◆住民同士のささえあいのために、自らできることはあると答えた方は、8割を超えています。
- ◆きっかけや条件を整えば、地域活動等に参加したいと答えた方の割合は、8割を超えています。
- ◆社会福祉協議会と連携して、地域福祉の活動に参加した企業の数は、年々増加傾向にあります。



2 次期計画の方向性: 地域の多様な主体の参画を推進

区民、地域団体、企業、福祉事業者等の多様な主体が、それぞれの強みに応じた地域への参加を推進します。

3 区民の生活課題・相談ニーズに関する現状

- ◆区民の皆さんが抱える困りごと・課題は、多様化、複合化しています。
- ◆区民の皆さんは、区に対し、どの世代からの相談等にも応じることができる体制を求めています。



3 次期計画の方向性: 包括的な相談支援体制の強化

区の相談窓口にて、区民の様々な相談を包括的に受け止める体制を強化していきます。また、分野横断の多機関連携のチーム支援の強化や包括的な支援の視点を持った人材の養成も強化していきます。

**Point!** 施策の方向性から、区として強化していきたい取組みのほか、社会福祉協議会を中心とした地域住民等の取組みを一体的に掲載していきます。

